

今回はどの図を使って 考えようかな？

武蔵野市立第五小学校 伊藤正枝

「今回はどの図を使って考えようかな？」
——学習中に聞こえてくる、本学級の児童のつぶやきです。国語科での学習ではもちろんのこと、他教科においてもさまざまな思考ツールを活用している場面が多く見られます。

指導をするにあたって、いちばん大切にしていることは、「使つてよかった！便利だ！」と実感させることです。実際に活用した経験がある思考ツールは教室内にも掲示し、「今日はあの図を使おうかな」と見返すことも多くあります。思考ツールが必要となきに選択して使う「引き出し」になることを目指して指導しました。

授業実践の紹介

①「食べ物ひみつを教えます」(三年)

「すがたをかえる大豆」を学習したこと

した。教科書や学習指導書に記載されている四つの図を参考にして、児童と一緒に「整理のしかた」「図」「つなげる言葉」について話し合いました。図を頼りにつなげる言葉を考えることで、伝えたいことが明確になりました。

児童の学習の振り返りには、「図を見れば、伝えたいことが言葉で表しやすい」「この図はこれからも見て使いたい」とありました。学級で相談し、思考ツールコーナーの横に掲示し、今後も活用することになりました。

③「大造じいさんとガン」(五年)

「大造じいさんとガン」を一読したあと、一人一人が読み取ったことや自分の考えを整理したシートを書きました。文章の全体を構造的に捉えたり、教材の読みを可視化したするための「読解地図」です。単元学習の冒頭に書くことで、学習の見通しを立てることに役立てました。単元を通して加筆修正しながら活用しました。

本学級において読解地図を作成することが初めてだったため、教師が読解地図のモデルを作成して提示しました。四年生で学習した「ごんぎつね」を題材にし、児童がイメージをもって取り組むことができるよ

を生かし、自分の興味をもった食べ物について説明する文章を書く単元での実践例です。大豆のようにすがたをかえる材料を選び、自分の考えを整理する際に活用しました。同心円チャートの中心に、材料の「米」を書き、二段階に広げて「おいしく食べる工夫」と「食品」を書きまとめています。線でつなぐことによって、どの事柄と結び



うにするためです。読解地図を書き込むワークシートは三種類用意しました。白紙、六分割、場面書き入れた六分割の中から選択させたところ、九割以上の児童が白紙を選択しました。「大造じいさんとガン」を教師が朗読した後、各自文章を読み返しながら、物語の中心となるキーワードを中心に整理していきました。さらに、場面や時間の流れ、中心人物どうしの関係、挿絵、作者に関する情報など、自分が着目した視点をもとに加筆していきます。

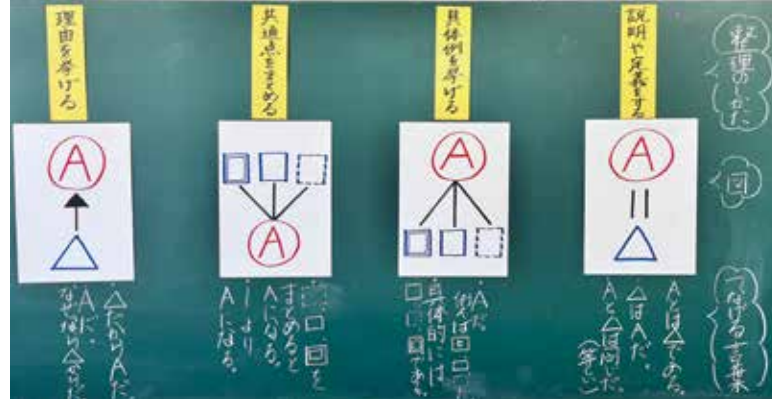
下の二枚の読解地図からもわかるように、児童によって、さまざまな整理のしかたがあり、工夫してまとめていることが見て取れます。互いの書いた読解地図をもとに学習計画について話し合うと、「どうしてここに着目したの？」「同じ物語を読んだのに、気づきや感じ方はちがう」「友達が心に残った場面を聞いてみたい」と、互いの読みを比較する様子も多く見られました。

自分で書いた読解地図をじっくり眺めながら、「こんなふうに自分の考えを書くって、楽しい！またやってみたいな。」とつぶやく児童の姿が印象的でした。学びの足跡がたくさん詰まった「世界に一つだけの読解地図」は、児童にとって大切なものになったようです。

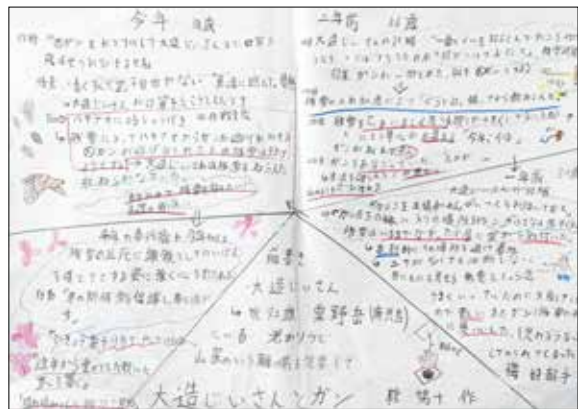
②「情報と情報をつなげて伝えるとき」(六年)

調べた情報をわかりやすく伝えるために、情報と情報をどのような関係で整理するとよいかを考える際に、図を使ってまとめ

付けているのか、一目でわかりやすいのが特長です。



児童Aの読解地図



児童Bの読解地図